

# 総務文教常任委員会会議録

(令和5年1月10日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和5年1月10日(火)  
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	尾崎恵一
委員	池田栄次	委員	金繁典子
委員	原田達也	委員	那須芳人

欠席委員

委員 吉村直城

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

局長補佐	小松一恵	局長補佐	藤本吉信
------	------	------	------

説明のため出席した者

(総務課)

課長	立花慶司	主査	山口昌
----	------	----	-----

本日の委員会に付した案件

- (1) 所管事務調査(机上審査)  
 「公共交通システムの調査研究」
- (2) その他

開会 11時09分

閉会 11時58分

○尾崎副委員長 皆さん、お疲れさまです。

ただいまから総務文教常任委員会を始めたいと思います。

委員長、挨拶をお願いします。

○石川委員長 明けましておめでとうございます。今年も1年、よろしくお願いします。

今日は、1月10日ということで、110番の日ということらしいですが、今日、あいなんバスに皆様乗っていただいて、いろいろな御意見いただいて、前向きな検討をしていきたいなというふうに思っております。よろしくお願いします。

○尾崎副委員長 早速、入ってまいります。

委員長、お願いいたします。

○石川委員長 今日、公共交通システムの調査研究ということで、皆さんに現地のほうに行っていただいて、それぞれ御意見をいただいて、まとめていきたいと思いますが、御意見いただいたらと思いますので、よろしくお願いします。

まず、①の現地調査、一本松地域。一本松地域に乗られた尾崎副委員長、池田委員、原田委員、それぞれ御意見いただいたらと思います。

尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 私は、一本松方面を回らせていただきまして、データ等も事前に見ておりましたが、実際乗って見ると、百聞は一見に如かずということで、いろんなことを感じる事ができました。また、運転手のほうも、知り合いだったので、その辺のほうで状況も聞いたんですけども、火・木・土と、週3日走っておるバスの中で、今日は第2便、全然ありませんでした。ふだんはどうか確認しますと、ゼロの日もあると。一番多いところで、7人程度の日もあるというところで、総体的に乗る人が少ないのかなと。乗る方の年齢は、70歳以上の方が多いいということでありました。

どのようなニーズがあるのかというところを聞きましたら、この路線では、一本松地区の病院、それからフレッシュ一本松ですか、あと郵便局、ここに行く人らが利用しておりますということでありました。

実際、乗ってみて思ったのは、きめ細かに回っているところはいいんですけども、全く、今現在は、もう乗る人がいなくなっているところについても、まだ走っておいでな状況があるので、その辺はやっぱり見直していく必要があるのではないかなと思います。

コース全体が、非常にぐねぐねと長いので、一本松から城辺まで、すごく長く感じたところがありますので、乗る人も、城辺に行きたい人が乗るときには、非常に、逆に不便を感じるのではないかなというところもありますので、コースの見直しも今後必要かなというところを、常にかけております。

私からは以上です。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 副委員長と同じような意見なんですけど、僕も乗ってびっくりしまして。乗客ゼロでした。

それと、かなり細かく、これコミュニティバスの特性というか、使命として当然のことやと思うんですが、かなり細かく回るので、すごい時間がかかります。要は、用事が出て、病院とか、バスで出てくるということは、用事があって出てくるんで、これは相反することで、大変、それを解決するといったら、相反することになるんやけれども、所要時間もちょっと考えんといけんのやないかなと思います。せっかくバスを走らすんで。

それと、特定の地名を挙げて申し訳ないんですが、太田と大駄馬、それと宮川の地区に乗入をしておるんですけども、1回入って、終点で折り返し。それで、ほとんど、人家も少なくなっているということと、運転手に聞きますと、そこから乗る方が、今はおられないということで、そこら辺の、地元の理解が一番大切ではあると思うんですが、そこで物すごい時

間を要する、時間だけの問題を言うたらいいんですけども、要するというところで、またこれからも燃料費とか、いろんな問題も出てきますので、その辺を考えると、今、利用者のいないところは、例えば4便走っておるのを、2便は乗入して、2便は乗入を遠慮させてもらうとか、今、現に利用されている方がおられないのであれば、乗入を、それは地元の人の意見を聞きながらであるし、また利用者が出たけんといって、すぐに路線を変更することも難しいと思うんですが、乗入を廃止して、今度、福祉タクシーとか、ほかの手だてでやっていくということも考えなきゃいけないんじゃないかなと思いました。

あと、一筆書きでずっと、行くところは細かく回るんですけども、これはいろいろバス停の問題とか、国道、宇和島自動が走っておるんで、そこにバス停、国道で乗客を乗せることができない、バス停を設置することができないということなんで、一筆書きのところは、もうこれそういう意味でも仕方ないかなと思いました。

全体的にあれすると、物すごく細かく、あいなんバスって走られておるので。僕のところは長洲なんですが、長洲は宇和島自動が走っております。そやけど、国道を走っておるだけで、長洲も中に入っていくと、一番奥の家っていうと800メートルぐらい、1キロ近いところまで住民が住んでおりますが、そういうところ、かえって物すごく便利だな、利便性があるなという感想も持ちました。

以上です。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 私も一本松の路線に乗ったんですが、今、2人の委員が言ったように、乗客はゼロ、岩水まではゼロということで、これが日頃、こんな状態なんだということを運転手から聞いたんですが。

お二人が言ったように、確かに路線が入り込んで、細かいところまで回っているのは、確かにいいんですけども、余りにも時間がかかり過ぎる。乗客は多分、買い物、あるいは病院が大体目的なんで、その目的を達成するには、余りにも時間がかかるんで、もう少し、このまま続けるのであれば、時間の短縮というのを考えたらどうなのかなというふうに感じました。

岩水からは、2人、今日は乗られたんですけども、それもやはり病院、買い物。やっぱり一本松の場合、池田委員も言ったように、福祉タクシーですかね、それを利用する方向にもっていったほうがいいのではないかなというふうに思います。

今後、地域交通会議ですか、そういう会議で十分に、特に一本松路線は検討をしていただきたいというふうに思いました。

以上です。

○石川委員長 それでは、2番の敦盛・大僧都線に乗られた、私と金繁委員と那須委員。

金繁委員。

○金繁委員 僧都からの線に乗らせていただいたんですけども、敦盛までの。でも、敦盛まで行かずに、この役場まで降りたんですが。1本でスムーズな路線ではあるので、しかも40分弱で、乗る方も6人いらっしゃいました。

病院に行く方とか、結構、足の不自由そうな方も利用されてましたし、本当、これがないとどこにも行けんというようなお話もされてました。

なので、割と利用される方はいらっしゃるようなんですけれども、データでもそうなんですけれども、幾つか、委員長や那須委員とも話したんですけども、バス停の場所が、例えば山出温泉だったら、広い道に出なくても、中でひろってもらえるようなことにすれば、特にこういう寒い季節ですと、御高齢の方は道を渡るだけでも大変ですし、寒い中、バスを待つというのも大変なので、中に入ってあげると、利便性が高まるねという話をしました。

それから、病院についても、せっかく病院の前に雨をよけるようにされているのに、それ

のない、横断歩道を渡って待たないといけないというので、足の不自由な方とか、病人さんが使われるところなので、あそこも何とか、一般道路でも公共交通が優先ですよ。なので、病院を利用される個人の方々があそこにとまるので、バスが遠慮するんじゃないかと、むしろバスを優先するぐらいでもいいのではないかなと、そうあるべきなんじゃないかなと思いました。

あと、循環バスのことは、委員長ぜひ。

以上です。

○石川委員長 那須委員。

○那須委員 バス停とその順路については、また考える必要があるかなというふうに思いましたし、起点の大僧都の集会所から乗ったんですけども、出発点はもう少し上にあげてもいいのかなというふうな気がしました。

その辺をバス停や順路については、もう一度、検討していただきたいというふうに思いました。

今日、乗客の方とも話しながら、ここまで来たんですけども、お一人は免許を返納したということで、なかなか買い物弱者の悲哀というのが出てまして、城辺のバスセンターまで行って、買い物をするのに、宇和島自動車を乗換えていく場合は、最高で2時間も待たないといけないというようなことも言っていました。タクシーだと、恐らくお金がかかるので、そういうふうにするのでしょうけれども、それをどうにかできないかなと。委員長と金繁委員とも話したんですけども、宇和島自動車の路線に関わらず、コミュニティバスではなくて、何か違った形の、買い物弱者とか病院とか役場に来る人たちが助けられるような、そういう路線が一つできないかなというふうなことは話しましたね。

そこは、委員長がまた報告すると思うんですが、そういうことを話しながら、帰ってきました。

以上です。

○石川委員長 ありがとうございます。

最後になりましたけれども、私も大僧都の起点から、まだ奥に人家が7軒ほどありますので、フリー乗降もできることなので、一番奥で転回するような形でいけばいいんじゃないかなと。

それと、大僧都からメインの道路を通ってますけれども、左側の川向こうのほうが住宅が多いので、あっち側を通ったらどうかなというのが1点と、それとあと、先ほど金繁委員からも報告がありましたけれども、山出温泉の中に待合所をつくったほうが、私は利便性が上がるんじゃないかなと。ひよっとすると、城辺の方々、山出温泉に行くのに利用しやすいし、道端に人家もないのに、余りにもちょっと、雨とか雪の日とかも考えたら、お年寄りの方には気の毒やないかなと。待たれる間がですね。いうふうに思いました。

先ほど、那須委員からも報告ありましたように、乗客の方と話しもって、この愛南町役場に来たわけなんですけれども、城辺のバス停から、わざわざ宇和島自動に乗って、買い物に、エマックスとか行かれるということで、一人の方は、宇和島自動車からタクシーでエマックス。もう一人の方は、バスで乗って行かれているというようなことですので、私は買い物するにしても、御苦労が絶えないなど。乗り降り含めて、待ち時間も含めて、1日ばかりになるような話になるので、そういうこともちょっと、新しい路線も考えるべきじゃないかなというふうに私は思いました。

それと、バス自体が、御高齢の方でつえをついてあがられるので、今後の課題としては、ノンステップのバスを採用して、今もう新しくしていますので、なかなか無理だとは思いますが、今後導入するに当たっては、ノンステップのバスがありますので、中型とか。そういうバスであれば、車椅子もちょっと補助があれば、ノンステップであれば乗れる

と思うので、そういう意味からしても、バス自身を、今後の検討としては、していったらいんじゃないかなというふうに思います。

先ほど、一本松地域の、乗られた報告ありましたけれども、利便性が悪いということで、利用者が少ないんじゃないかなと。ここをどうやって上げていくかというのを考える必要があるなというふうに思います。

細かいところを回って、行きたいところに短時間で行けるかということ、両方考えていかないといかんで、なかなか難しい問題があるかとは思いますが、ただ、今の運行状況を踏まえた場合に、余りにも利用者が少な過ぎて、住民のニーズに答えてないんじゃないかなというふうに思います。

せっかく一本松、今、2便というか、別便ですけれども、毎日走らせてますけれども、余りにも利用者が少な過ぎるなど。岩水までゼロ人ということは、これに乗っても行きたいところに行けれんなということでしょうから、そこはやっぱり、もう一度、一本松の方に、アンケートか何かをとって、逆に提案型でこういう案もありますけど、どうですかということで、住民に投げかけるという手もあるかと思うんです。

これをどのようにしたら上げていけるか、ちょっと御意見を、委員の方に、アイデアがあればいただきたいなと思います。

金繁委員。

○**金繁委員** 交通の協議会のほうでも、一本松の便は何とかしてほしいというアンケートも、ちょっと書き込みはあって、こちらの協議会の委員のほうからも、一本松は何とかしなければという指摘はされていたんですけども、実際にじゃあ、具体的に住民が利用できるようにするには、話を直接聞くのが一番じゃないかなと思うんですね。

二、三年前だったか、最近、西海の路線を始めるときに、ちょうど防災の説明会と合わせて、路線バス、ここを走らせたいんですけども、御意見ありますかということ、直接お聞きになられていました。すごいいいなと思ったんですけども、そしたらいろいろ出てました。病院の時間がこうなんやから、もっとこういう時間にしてほしいとか、ぱぱぱっと出たんで、地域の人に直接聞くというのが、一番役立つ路線が、具体的にできるんじゃないかなと思います。

なので、一本松は、これだけ少ないということは、本当に利用しようと思ってもらえてないわけで、アンケートでは限界があるので、面倒ですけども、一本松で1回でも、何回でも話を聞くというような機会を設けたらどうかなと、私は思います。

以上です。

○**石川委員長** 池田委員。

○**池田委員** ちょっと話がずれるかもしれんですけども、城辺のバスセンター、各方面から入ってきて、病院とか買い物に行くのにちょっと不便だということで、一本松のバスに乗るとる間に、立花課長とお話したんですが、巡回バス、町内を、例えば愛南町役場、県立病院、バスセンター、コミュニティバスのところをぐるっと、それからフジとか、そういうところをぐるぐる巡回バスを回してあげれば、かなり利便性になるんじゃないかという話をしたら、前、1回実証実験でやったことがあるというような話も聞いたんですが、その辺を詳しく教えてもらいたいです。

○**石川委員長** 立花総務課長。

○**立花総務課長** 資料、詳細ちょっと持ち合わせてないので、記憶の中で御説明をさせていただきますので、ちょっとずれがあるかもしれません。

前回、愛南町の地域公共交通等計画を策定した際に、住民アンケートも、今回同様にやらさせていただきました。

そういつたときに、先ほど複数の委員の方からお話が出ましたように、買い物にコミュニ

ティバスだけではちょっと不便を感じるので、巡回バスがあればいいんじゃないという声が、複数寄せられた背景がございまして、記憶なので、前後するかもしれない。平成28年だったと思うんですが、半年間、宇和島自動車に委託をしまして、1日4便程度やったと思うんですけども、城辺のバス停から県病院、そして緑の左谷から長月を回ってフジに出て、B&G、道の駅とかという形の、周遊するようなバス運行を半年間行ったんですけども、利用者がかなり少なかったために、半年間だけの実証で終わったという経緯がございまして。

以上です。

○石川委員長 私、今、それぞれの路線と、買い物と、買い物する場所。例えば、役場から県立病院、北裡を通過して、緑新鮮市から左谷抜けて、和口抜けて、八幡野神社。八幡野神社から国道周りは宇和島自動が走ってないと思うんですね。ダイレックスもあるし、コスモスもあるし、レディもあるでしょう。

あの辺りを巡回して、ここに戻ってくるような形で、なおかつ今のコミュニティバスと連絡がとれるような回り方をすれば、1日4便というよりも、私はそれぐらいだったら、二、三十分で多分、回ると思うんですね、1周。そうすると、3時間に1本が30分に1本ということになると、それと大僧都線なんかでも連絡すれば、山出温泉に行く方も、そのバスを利用して、いらっしゃるんじゃないかなというふうに思いますし、特に一本松の方が、買い物ができない路線になっていますので、唯一、月、水、金でしたか、愛南町の役場に来るのが一番近いような格好になって、コメリぐらいしか行けないとは思うんですけども。

そういう意味からしても、ここはコミュニティバスの連携と、なおかつ巡回バスを考えれば、私はそれなりの住民の要望があるんじゃないか、要求があるんじゃないかなという思いはあるんですけども。

逆に、こういう提案をして、住民の方に一回聞いてみるというのもいいんじゃないかなというふうには思いますけれども。

大僧都線で乗られた方、2名のうち1人はタクシーで城辺営業所から乗って行く。1人は、宇和島自動に乗って、2時間かけて、待ち時間2時間でエマックスまで行くというような状況を考えると、大僧都線の6人のうち2人いらっしゃるということは、かなりの率で、そういう要望があるんじゃないかな。それを、一本松線にも展開できるような形でもっていければ、かなりデマンドがあるんじゃないか、需要があるんじゃないかなというふうに思います。

池田委員。

○池田委員 多分、巡回バスに関しては、もう一つタクシー事業者との競合の問題とか、そういう問題も抱えておるんやろうとは思いますが、その辺も、例えば巡回バス、乗る人数にもよるんですが、タクシー業者を巻き込んでというような、新しい方法があれば、巡回タクシー、デマンドになってしまうのかもしれないんですけども、そういう方法、何とかタクシー事業者と協働しながらという方法も見つけ出していけば、その辺も解決するんじゃないかと思うんですが。

抽象的な話で申し訳ないんですけども、どうしたらええんと聞かれたら、ぱっと具体的な案は出てこんのんですけども、多分、民間事業者との競合の問題もあって、なかなかそこら辺の壁があると思うんですが。

それと、もう一つ、いうたらコミュニティバスの路線を、簡単にここで、委員らが、あそこはちょっと今のところは利用者がいないので、路線をちょっと中止させてもろて、利用者ができたら路線をまた乗入したらええやないかとかいうような、安易なことを提案したりするんですけども、これ、町の関係で、どうにもならんことなんですけれども、運輸局の関係があるので、これらもやっぱり、議員の仕事でもあると思うんですが、そういう特殊な理由でコミュニティバスを走らせておるわけで、そういう事業に関しては、もっと柔軟な対応

をとすることを、運輸局のほうに要望していくのも一つの方法ではあると思います。

余り縛られてしもて、いろんな案が出て、そういう法で縛られてしもて、なかなか柔軟な対応ができんということもあるので、その辺も必要かなとは思っています。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 運行路線のところ、私のほうから状況を説明させていただければと思います。

運行路線を変更する場合は、運輸局なりに届け出て、認可をいただく必要があります。

それは、極端な話、一月後とか、二月後でも可能ではあるかと思っています。

また、並行して、考えなければならぬかなというふうに思っておりますのが、住民の方々への周知が、運輸局の届出以上に、必要かなと思っております。

路線を変更する前は、少なくとも3か月前以上ぐらい前に周知をしておかないと、利用者の方、ランダムに利用されている方もいらっしゃいますので、その辺が非常に難しいところかなというふうには考えております。

急をするような、あるいは簡易的なところでの路線の変更であれば、書面開催によりまず同意をいただければ、一月以内に路線の変更は可能な状況もございます。

以上です。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 四国運輸局、今この愛南町のコミュニティバスの状況というのは、多分、既に分かっておるとは思うんですが、運輸局からこういった、全く利用者がいない路線、どうしたらいいんだという、指導とかそういうのは全くないんですかね。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 愛南町の地域公共交通会議の中の構成員として、御出席をいただいておりますが、先般、開いた際に、委員会でも課題として御指摘を受けているんですが、やはり一本松地域のコミュニティバスの利用状況は、地域の状況を鑑みて、この路線について十分に検討すべき路線ではないかというような御意見は、運輸局の方からもいただいております。

以上です。

○石川委員長 今日乗られた一本松の、今、一本松支所から岩水まで、この路線って、年間の、そこだけです。そこだけを見ると、僕は相当少ないんじゃないかなと。上大道経由の、広見から上大道を抜けるこの路線は、緑新鮮市を通って役場まで来る路線、これはそこそこあるようには思うんですけれども、資料か何かありますか。記録だけでもいいんですが。

立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

今、手元にはないんですが、一本町地域のバス停ごとの利用者人数は、常に集計をかけておりますので、後ほど、構いませんでしたら、資料提供ということで、タブレットのほうにデータ送信させていただければと思います。

以上です。

○石川委員長 特にこの路線を、宇和島自動と競合しますよね。一本松から、支所からですよ。

正木から小山抜けて、一本松支所まで来るでしょう。一本松支所から岩水まで。岩水も、途中までは国道の路線になるけど、その間は、余り、どう考えても多いようには見えないなと思うんですよ。

尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 実際、運転手のほうにも聞いたら、7人の固定客があるんやけれども、その人らの利用としては、もう一本松地区、フレッシュ一本松や一本町病院、郵便局に行く人ら、7名やということで、今まさに言うたとおりです。

一本松から岩水に行く用はないんですね。一本松に、その人らは利用しよるから。

○石川委員長 岩水でこれ、乗換えになるし。

○尾崎副委員長 岩水から乗る人が、病院に行く人、買い物に行く人もおるんやけど、宇和島自動車バスのバス停で降りて、バスに乗換えていく。今日も行きよる人が・・・。

○石川委員長 正木から一本松支所までは、話は聞きましたか。

○尾崎副委員長 誰も乗ってこなかったよ。

○石川委員長 いや、乗ってこなんだけど、その運転手さん。

○尾崎副委員長 話したん。

○石川委員長 うん。

○尾崎副委員長 運転手も、いつもころころ変わるんですけども。

この路線的には、一本松に来る人がほとんどで。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 おとぎ話のような話になるんやけど、一本松支所から岩水までは、昔というか、集落をくるくるくるくる回って、国道のほうには走らんのですよね。旧道を。人家のあるところを、こう。これは一筆書きで行くんやけん、別にそんなに時間的あれはないとは思いますが。

そしたら、例えば入りよる、人家のところへ迂回して入りよるところでも、要は国道にバス停ができるなら、そこで乗り降りができるなら、それでええんじゃないかな。そこでも十分じゃないかなという場所もあるんですよ。

ただ、けど国道でバス停を設置できない、乗客の乗り降りができないということで、駐車場が目的ではないんやけど、利便性もあるんやけど、どうしてもそこへ入って行って、駐車場をつくらないけんという、乗り降りをそこでせないけんというのがあるんで、その辺が大きいと思います。

ひとつ、利便性を追求すると、全てがずっとあれして、玄関先で乗れたら一番ええのについていうような話になるんであれやけど、バスなんで、ある程度は距離があっても、そこで乗り降りするのは仕方ないというか、それはバスとしての機能の中で、例えば容認してもらわんといいけん面もあると思うんですが、その路線の中で、ああ、これ、国道で乗り降りできたら、別にこっち回りでもええのになというような場所もなきにしもあらずのような感じも受けました。

○石川委員長 大僧都線でもあったんですけども、混んでいる国道とか、混んでいる道はあれなんですけれども、基本的に田舎のほうの、奥のほうの道はフリー乗降というて、家の前から乗られている方もいらっしゃるんで、そういう面では、このコミュニティバスはすごく便利なんですけれども。

ただ、ルートを含めて、これちょっと考える必要があるのかなというふうに思いますね。

例えば、今日、乗ってはないんですけども、増田・広見線、これ一本松支所から役場まで、20分ぐらい、29分ぐらいで来れる、この便は結構いいんじゃないかなとは思いますが、これ基本的に、一本松は1便しか出て、交代交代で、月、水、金と火、木、土で、同じ車でこのルートを分けて乗っているということで、なかなか小山とか正木の住民の方々が、県立病院とか役場に来るのは2日に1回か、もしくは先ほど言ったように、どこかで、一本松で乗換えて、宇和島自動で来るしかないような状況なので、この辺りは考える必要があるんじゃないかなと思います。

このコミュニティバスの本当にいいところは、玄関先から、田舎のとこやったら、バス停がなくても手を挙げたら乗せてくれるという、この利便性は相当ありがたいというふうに思います、住民は。ただ、そのルートを含めて、先ほどから、委員からも出ているように、時間短縮をどうやって考えるかという、ルートを考えないと、利用率が上がっていかないんじゃないかなというふうに、私は思っています。

那須委員。

- 那須委員 今日はどこまでするんですか。取りまとめまで、全部やってしまうんですか。もう一回、委員会開いて。
- 石川委員長 今後の日程も含めて、次の（２）のその他でやりたいと思いますが。今日はそこまでということにしたいと思います。今後の日程と、取りまとめまで。大体もう、意見は、今日乗った感想は出たと思いますが、ほかに御意見あれば。（「なし」と言う者あり）
- 石川委員長 なければ、（２）のその他。今後の日程と取りまとめについてですが、２月の中旬までに取りまとめをしないと、日程的に、３月の本会議に間に合わないということで、それまでの日程を決めていかないといかんのですけれども、何か御意見ありましたら。原田委員。
- 原田委員 今日、取りまとめしたらどうですか。この後。もう昼やけど、さっと。
- 石川委員長 そういう御意見もありますが、ほかの委員の方。那須委員。
- 那須委員 今日はバス停とか順路について、時間と、そういうことを思いついたのを、皆さん言ったんですけれども、それで、もしできるのであれば、両委員長に取りまとめをお願いしたいと思います。取りまとめというのは、そういうことやけん。
- 石川委員長 現状の課題は分かるんですけれども、報告として、提案型で、政策提案、改善策を考えるとということになると、もう一回、ちょっと寄っていただかんといかんのかなというふうには思いますが。
- 那須委員 それでいいと思いますよ。別に路線は、一本松と大僧都だけではありませんから、由良半島もありますので、その部分は私も言いたいし、もう一回、２月ぐらいに、適時、お任せします。
- 石川委員長 ほかの方、御意見ありますか。それでは、もう一度集まって、課題は大体見えてきたので、提案をできるような形でまとめていきたいなというふうに、ほかの路線もありますし、そういう意味からして、もう一回集まっていたいただいたほうが、私もありがたいなというふうに思います。それでは、次に、次回の日程も、早速決めていかないと、もう日程がありませんので。今、議長が空いている日程というのは。小松局長補佐。
- 小松局長補佐 今のところ、空いている日なんですけれども、１月においては、１月１９、２０日。２３日から月末までは、埋まっております。２月においては、１、２、３。２月上旬でということでしょうか。
- 石川委員長 ２月の１、２、３のうちで日程を決めましょうか。ここで１日にしますか。皆さん、どうですか。早いほどいいと思います。じゃあ、２月１日、１０時からということでしょうか。（「はい」と言う者あり）
- 石川委員長 その他で、ほかに御意見ある方、いらっしゃいますか。
- 尾崎副委員長 そしたら、以上をもちまして総務文教常任委員会を終えたいと思います。お疲れさまでした。

委員長